

高齢分野と障害分野の連携会議（第5回相談支援部会）

開催：令和7年1月22日

参加者：介護支援専門員（32名）、相談支援専門員（18名）

奄美市高齢者福祉課5名、障がい者等基幹相談支援センター（3名） 計57名

◎グループワーク

「高齢の障害者への支援」について、自助、互助、共助、公助の地域資源を検討

事例を通して、様々な角度から日常生活で自立していくためのアイデア・自立支援につながる視点で資源を出し合ってください。

【自助】

・アルコール教室（1G）

・趣味があれば情報を集め（レク活動楽しみなど）自分でできること、やりたい事を見つける。

（2G）

・良い例：コミュニティの中で野菜作り、仲間と一緒に活動し販売できるようになった。報酬を得ることで自律につながり積極的に参加している。（2G）

・飲酒のコントロール、生活リズムが整っていれば適量の飲みはよいとする（2G）

・好きなこともっとアセスメントする（4G）

・好きなことを見つける（5G）

・自分でできることはやる（通院、薬をきちんと飲む、食事をとる、睡眠）（5G）

・信頼できる友人作り、楽しいと思える場にでかける、本人の思い、楽しみを聴ける関係性作り、本人が意欲をもって生活できればよい（6G）

・通所を続ける、飲酒量を控える、できる家事は続ける、自分の思いを誰かに伝えられる、本人の意向どう生きていきたいか生活していききたいか、病院受診をきちんとする、趣味楽しみを作る（7G）

・かかりつけ医、内服薬、受診同行、趣味を見つける、栄養をしっかりとる、居住環境を整え安心してこの先も暮らせるようになる（8G）

・生活状況（受診、服薬、食事、筋力運動）はどうなのか？介護保険サービス利用が必要なレベルか、てんかん発作は頻回にあるのか（9G）

・地域の教室で学んだ体操等をその時だけじゃなく自分でもやってみる（10G）

【互助】

・地域の場と交流、もっちもーれ等、地域の行事、自治会活動（1G）

・昔の仕事仲間。就労仲間、飲み友人の関係を活かすことはできないか（2G）

- ・家族、友達についてのアセスメント、彼女を作る（４G）
- ・友人、疎遠になっている子に連絡をとってみる（５G）
- ・飲み友達、キーパーソンをどうするか、元嫁との関係性は？子供の意向（６G）
- ・友人との関係性、趣味の有無、本人と信頼関係の構築（７G）
- ・近所づきあいやキーパーソンはいるのか？関わりある人を増やす。民生委員や行政が介入し、地域住民とのかかわりを増やす。就労Bの仲間も一つの資源（８G）
- ・就労B以外で他者との交流があるのか？知人友人はいるのか？（９G）
- ・地域の場の交流へ支援者が付いて出かけてみる（１０G）
- ・無理にアルコールを断つための支援より、本人の状況を見守る体制（１０G）

【共助】

- ・見守り隊への参加（小学生の通学の見守り）（１G）
- ・健康教室への参加を促してみる、一緒に行ききっかけを作るところはサポートする（２G）
- ・参加した場で、最初はスタッフの協力を得て、自分でできること、手伝える行動ができたら良いのではないか（２G）
- ・ころばん体操、男子会を本人に選んでもらう、相談員、ケアマネが情報を知る（４G）
- ・地域住民、ボランティア、ピアグループ、ヘルパーの利用、ぴあリンク（５G）
- ・B型事業所、総合事業（６G）
- ・関係職種、各事業所が連携することが大事、アルコール依存に対する治療や経過、精神症状の状況（７G）
- ・新聞のたまり、具合等地域で気づきやきになることがあった際の連絡先を共有（７G）
- ・自立訓練を利用、地域で利用できるサービスを捜す。作業の取り組み具合を見て得意分野を伸ばす（８G）
- ・介護保険の申請のタイミングを図るための包括等との連携（１０G）

【公助】

- ・本人の趣味活動ができるような場所や人、活動内容を提案（公民館講座等）し利用してみる（２G）
- ・就労Bを継続できる、精神科デイケア・ナイトケアもよいのでは（４G）
- ・地域行事へ自分なりの参加（５G）
- ・生活保護、ケースワーカーとの連携（６G）
- ・骨折や病気で入院したとき、病院から介護保険申請と言われる。CMは申し出があれば申請するが、本当に必要なのかを。保護課も一緒に検討しなければいけない。障害から介護になり改善後どこにも行き場なくなる危険がある。実際あった。（７G）
- ・役所もっとしっかりしてほしい。がんばれ。（７G）